

KDDI 総研 R&A 誌は定期購読（年間 27,468 円）がお得です。お申し込みは、KDDI 総研ブックオンデマンドサービスまで。既刊の PDF 無料ダウンロードの特典もあります。

(<http://www.bookpark.ne.jp/kddi/>)

ベトナム携帯電話業界の新規参入動向



ベトナム携帯電話業界の新規参入動向

🕒 記事のポイント

サマリー ベトナムの携帯電話業界では、2003年7月、Saigon Postelと韓国資本の提携によるCDMA事業者S-Telecomが新規参入して以降、あらたに複数社の参入があった。本稿では、これら新規参入動向について概観する。

主な登場者 Viettel Mobile VP Telecom Hanoi Telecom Hanoi P&T

キーワード 携帯電話 GSM CDMA CityPhone

地域 ベトナム

執筆者 KDDI総研 政策研究G 河村 公一郎 (ko-kawamura@kddi.com)

現地紙報道（2005年5月16日付Viet Nam News、2005年6月8日付The Saigon Times Daily）によれば、2005年5月現在約580万のベトナムの携帯電話加入者は、今後3年間でおよそ2倍になると予想されている。この有望市場から利益を得るべく、2004年後半以降、パイロットサービス、免許取得段階のものを含め新規参入が相次いでいる。

以下、これら新規参入者であるViettel Mobile (GSM900)、VP Telecom (CDMA450)、Hanoi Telecom (CDMA800) の動向についてまとめた。

1 Viettel Mobileの動向

Viettel Mobileの親会社であるViettelは、国防省系の通信事業者であり、以前よりPTT系国有事業者のVietnam Post and Telecommunications Corporation（以下「VNPT」）が独占的な地位を占める固定系サービス市場（電話加入回線、IP電話を含む電話サービス、インターネット接続、法人系サービスなど）において、Saigon Postelなどと同様、一部のシェアを占めてきた。特に、大都市間のIP電話市場では、比較的大きなシェアを持つとされる。

Viettel Mobileは携帯電話市場に2004年10月にGSM900方式で参入したが、短期間でCDMA系の後発参入事業者であるS-Telecom（サービスブランド：S-Fone）の加入者数を追い抜いた。現地紙報道（2005年6月8日付The Saigon Times Daily）によれば、2005年6月上旬現在、S-Telecomの加入者数約35万に対して、Viettel Mobileは60万を超えた。

S-Telecomは10秒毎課金で斬新性を打ち出したが、Viettel Mobileの場合はさらに小刻みで6秒課金とした点が顧客にアピールした[☞]（脚注）。

Viettel Mobileは、2005年末時点で全国1,800の基地局を展開すべく積極的に投資しており、2005年末の加入目標を150万としている。

【コラム①】 Viettelの組織変更

ベトナム政府は、2005年5月、Viettelの組織形態を公企業体から会社（corporation）に変更することを決定した。ベトナムの現行法では、会社のみが子会社（subsidiary companies）を持つことが許されている。実際の組織変更は、2005年6月上旬に実施された。

具体的には、Viettelは所有会社となり、傘下に9つの事業会社（Viettel Fixed Telephone、Viettel Mobile、Viettel Data-communication、Viettel Telecom、Viettel Internet、Viettel Post、Viettel Survey and Design、Viettel Construction、Viettel Import-Export）を持った。

Viettelは、2010年までに電気通信市場で20%のシェアを占め、年間売上げVND14兆（約980億円）[☞]（換算率）を達成する目標を持つ。また、通信機器、エレクトロニクス機器、コンピュータ（ハード）の製造計画を持つほか、不動産事業への参入も想定している。



☞（脚注）

VNPT系のVinaPhone、MobiFoneは、2005年6月現在、30秒毎課金を15秒ないし20秒課金に変更し、通話料金を25%下げることが計画中である。

☞（換算率）

1 Vietnamese Dong = 0.006999円（2005年7月1日）

2 電力系VP Telecomの動向

ベトナムの国有系の独占電力企業であるElectricity of Vietnam Corp. (以下「EVN」)の子会社VP Telecomは、2004年12月、5つの都市および州でCDMA2000 1x方式(450MHz帯)による携帯電話のトライアルサービスを開始した。2005年6月現在、トライアルを続行中で(加入者数約2万)、商用サービスは2005年第3四半期を目標としている。また、VP Telecomの2005年の売上目標はVND1兆1,000億(約77億円)である。

VP Telecomへの設備供給には中国メーカ(HuaweiおよびZTE)が含まれている^①(脚注1)。設備契約は2005年4月に締結され、計画では、VND3兆1,840億(約223億円)の投入により2005年末までに加入容量200万回線の全国規模のネットワークが建設され、その後さらに拡充される予定である。

3 Hanoi Telecomの動向

Hanoi Telecom Joint Stock Company(以下「Hanoi Telecom」)は地場の公有系の固定系通信会社であるが^②(脚注2)、2005年2月、計画投資省(Ministry of Planning and Investment)から15年の携帯電話事業免許を受けた。

事業は、香港のHutchison Telecommunications International Ltd(以下「HTIL」)とのBusiness Cooperation Contract(以下「BCC」)による。通信方式はCDMA2000 1x(800MHz帯)で、HTILはUS\$6億5,600万(約727億円)^③(換算率)を投入する。

サービス開始時期については、2005年後半が予定されている。同社は10年以内に290万加入を見込むとしているが、この数字はやや控え目ではないかと評する向きもある。



① (脚注1)

中国メーカはCDMA450の設備供給では世界で大きなシェアを占める。途上国はコスト抑制の観点から、方式的にすぐれる一方で電波が遠くまで届くCDMA450を導入するケースも目立ち、低価格での供給能力のある中国メーカは途上国向け供給での存在感が大きい。

② (脚注2)

VNPT傘下(PTT系)のHanoi P&Tと名前が類似しているが、別会社である。

③ (換算率)

US\$1=110.84円(2005年7月1日付東京市場TTMレート)

【図表】ベトナムの携帯電話事業者

	VinaPhone	MobiFone	S-Telecom	Viettel Mobile	Hanoi Telecom	VP Telecom
URL	www.gpc.vnn.vn	www.mobifone.com.vn	www.stelecom.com.vn	www.vietel.com.vn	www.hanoitelecom.com	www.etc.com.vn
系列	VNPT系（国有系）	VNPT系（国有系）	Saigon Postel系（公有系）	国防省系（国有系）	地場人民委員会等（公有系）	EVN系（国有系）
提携外資		Comvik（スウェーデン系）	SLD Telecom（韓国系）		Hutchison Whampoa（香港系）	
サービス開始時期	1996年6月	1994年4月	2003年7月	2004年10月	2005年後半に商用開始予定	2004年12月パイロット開始
方式	GSM900/GPRS	GSM900/GPRS	CDMA800	GSM900/GPRS	CDMA800	CDMA450
加入数（2005.3）	2,800,000	2,021,000	160,000	300,000	なし	20,000（2005.5）
加入数シェア概算	52.80%	38.10%	3.00%	5.70%	なし	0.40%
備考		ComvikとのBCCは2005年5月に終了。以降、MobiFoneは株式による資金調達に向かう。	Saigon Postelは地場人民委員会、地場公有企業が出資。		2005年2月免許取得。	2005年3Qに商用開始予定。

(各種資料によりKDDI総研で作成)

加入数出典：EMC Cellular Database 2005年2Q版、現地紙

その他参考資料：CDGのホームページ、Global Mobile誌（2005.6.1）

【コラム②】Hanoi P&T、PHS SIMを導入

ベトナムでは以上の携帯電話事業者のほかに、米国UTStarcomのPAS技術を用いたVNPTのCityPhone事業がある。PAS（Personal Access System）は日本のPHSと同様のサービスであり、旧来系キャリアによる既存固定網を活用した相対的に廉価な都市型あるいはコミュニティー型移動電話と言える。

CityPhoneは、VNPT傘下のHanoi P&TとHo Chi Minh City P&Tが各々の都市でそれぞれ2002年12月、2003年2月に提供開始した。2005年2月現在、他の都市には拡充されていない。2005年2月現在、加入数と基地局数は、Hanoiがそれぞれ6万と1,300、HCMCがそれぞれ9万と2,000である。

Hanoi P&Tは2005年4月、2005年後半にPHS SIMが利用可能な端末を提供する予定であると発表した。ユーザは、このSIMカードがあればニーズに応じて他のPHS SIM端末が利用できるようになる。

Hanoi P&TとUTStarcomは、UT228、UT611、UT221といった当該シリーズ端末と同時に、GSM SIMも装着できるデュアル機能の端末もリリースする予定である。

📖 執筆者コメント

Viettel Mobileの短期躍進と**S-Telecom**の伸び悩み^{☞(脚注1)}は、あらためて100%地場資本の強みが示された例とも言える。地場資本は、BCC形態などの外資との協業に比べ、経営陣が一枚岩になれる面が強いだろう。国有系企業の**Viettel**には既得権益的な部分が発揮する力も大きいと考えられる。

また、国有系企業とはいえ**Viettel**は挑戦者側であり、顧客志向（6秒毎課金）のサービス導入などに加え、旺盛な設備投資、効果的なキャンペーン^{☞(脚注2)}も奏功した。また、通信事業者として比較的長い歴史があり、ブランド力も備わっていたと考えられる。

ベトナムの携帯電話業界も事業者がひしめいてきた。こうしたなか、VNPT系の2キャリアのシェア合計は2005年3月現在90%超と相変わらず非常に大きい。有望市場にあって新興事業者の芽が摘まれ設備投資が無に帰さないよう、適切な政策、規制の運営も望まれている。

📖 出典・参考文献

- ・ベトナム現地紙
 - The Saigon Times Daily (2005.2.21、2005.2.22、2005.6.8)
 - Viet Nam News (2005.4.27、2005.5.16)
- ・電子ニュースVietNamNetのホームページ
(<http://english.vietnamnet.vn/tech/2005/06/447591/>)
(<http://english.vietnamnet.vn/tech/2005/06/444671/>) 他
- ・電気通信関連情報サービスTotal Telecom (www.totaltele.com)
- ・CDMA Development Group (CDG) のホームページ
(http://www.cdg.org/worldwide/index.asp?h_area=0&h_technology=999&h_frequency=1)
- ・Viettelホームページ (http://www.viettel.com.vn/e_098.aspx)
- ・KDDI総研R&A2004年9月号
「ベトナムSaigon Postel系S-Telecomの携帯電話事業S-Foneの動向」



☞(脚注1)

S-TelecomはCDMA2000 1xが実現できる機能を十分に展開せず、機能の少ない廉価端末を出したこと（加入増偏重）が裏目に出た、と指摘するアナリストもいる。

☞(脚注2)

2005年4月24日～5月25日の間、加入一時金を半額にしたほか、他の**Viettel Mobile**加入者への通話に50ユニット（300秒間）の無料サービスを施した。また、100万の電話番号を用意し、ユーザが自由に選べるようにした。この結果、この1ヶ月間で20万加入を記録した。